

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年9月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500114		
法人名	有限会社中田介護事業所		
事業所名	グループホームよもぎ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府池田市豊島南1丁目13番2		
自己評価作成日	平成26年7月22日	評価結果市町村受理日	平成26年10月6日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/">http://www.kaigokensaku.jp/27/</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	平成26年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

パーソンセンタードケアを取り入れ、その人らしさを大切に、一人ひとりのニーズと気持ちに合わせた援助を行っています。また生活の質の向上と楽しみを持って生活を送って頂ける様、季節感を感じる手作業や行事の実施、生け花やアロママッサージ等の様々なボランティアの受け入れも行っていきます。時間オンコール体制を整備しています。  
医療面においては、安心して生活して頂ける様、1か月に2度の往診と看護師の配置、看護師との24時間オンコール体制を整備しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能型サービス、通所介護サービス併設の地域に密着したグループホームは、利用者と共に地域行事活動へ積極的に参加し、交流の機会を持っている。さらに、地域の行事への参加や事業所全体での祭り開催時には、地域の方にも参加を呼び掛け交流をしている。また、ボランティアの来訪がありハンドベル、華道、歌体操等利用者の楽しみとなっている。さらに、地域に向けて介護相談など事業所の機能を活かして地域貢献できるよう取り組み、地域の方からの相談や認知症に対する理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。代表・職員は利用者との日々の関わりの中で何気ない話しから思いや意向を把握・聞き取り、利用者のペースに合わせた寄り添う介護に努めている。日常的に、利用者の希望や身体状況に応じて、調理や盛り付け・配膳・後片付けなど食事に関する一連の作業への参加を支援し、一人ひとりが役割を持ってゆったりと日常生活が送れるように、心身の自立支援に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎日、出勤スタッフ全員で理念を唱和し共有し、また会議やミーティング等に、職員が理念を遵守できているか再確認を行い、実践につなげている。</p>	<p>法人の理念を事業所の理念として入口に掲示しいつでも見て確認し全職員で共有するように努めている。ミーティングの中等で理念に基づいた話を行うことで理念の理解と共有を図っている。</p>	<p>法人理念を基に地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ運営方針を立て、より理念の共有と実践に取り組むことが望まれる。</p>
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域で行われる盆踊りやハビリ教室など参加したり、事業所の祭りに地域住民を招く等、交流する場を設け、地域社会と交流が持てる様努めている。</p>	<p>地域の行事への参加して交流の機会を持っている。事業所全体での祭り開催時には、地域の方にも参加を呼び掛け来訪してもらい交流をしている。また、ボランティアの来訪がありハンドベル、華道、歌体操等利用者の楽しみとなっている。現在、地域の方に気軽に立ち寄ってもらえるような家庭的な玄関の雰囲気作りを検討している。地域で開催される今夏の祭り時に出店の働きかけを行っており、事業所の機能を活かして地域に貢献できるような取り組みに努めている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>自治会の回覧板を通じて事業所の取り組みを理解してもらい、事業所には、介護相談窓口を設置する事で地域における介護の拠点として機能していける様務めている。</p>		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に1回開催。地域住民や包括職員、民生委員等の方々に参加してもらい、利用者様へのサービス状況、事業所の取り組み等を報告している。またそこで出た意見を事業所のサービス向上に取り入れサービスの向上に努めている。</p>	<p>2カ月に1回運営推進会議を開催している。利用者家族代表者、自治会役員、地域包括支援センター職員の方に出席してもらい、事業所の活動状況や利用者の状況報告を行い、参加メンバーより意見や提案、助言をもらい運営やサービスに反映させるように努めている。</p>	<p>運営推進会議の内容は参加できなかった職員やメンバーにも理解してもらえるようにすることが望ましい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>定期的に事業所の現状や新しい取り組み、困難事例等を報告している。また判断し兼ねる内容については随時相談する等、協力関係を築いている。</p>	<p>事業所での課題や疑問があればケアマネジャーを通して市町村の担当窓口と連絡を取り、助言や指導を受けるようにしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>重要事項説明書、運営規定に明記している。また施設内研修では、身体拘束の内容やその弊害を認識してもらい、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。</p>	<p>建物内のエレベーターや階段は自由に使い移動ができるようになってきている。玄関の施錠は利用者の安全性の確保が難しい場合には短時間施錠することはあるが、利用者に閉塞感を感じさせないように努めている。現在、利用者・家族と共に話し合いを通してベットの柵の使用をしている利用者がある。身体拘束をしない研修も実施しており、車椅子で一日職員が過ごす体験を通して拘束をしないケアの理解を深め虐待防止と共に徹底を図るよう取り組んでいる。</p>	

7	<p>○虐待防止の徹底                  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修で高齢者虐待をテーマに取り上げている。ご家族に対しては送迎時や面会時に介護疲れや、その他困っている事が無いか等、話を聴き、未然に防止できる様務めている。職員に対しては、定期的に管理者が面談を行い、介護を行う上で起きるストレスの有無を聞き取り助言指導している。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用                  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>スタッフに対して権利擁護や成年後見制度に関する把握は行ってはいないが、身寄りがない必要な利用者に対しては、成年後見制度を説明し利用して頂いている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得                  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、必ずケアマネージャーと管理者の2名で訪問している。利用者様やご家族様が不安に感じている疑問に感じている事を十分に表す事が出来る様働きかけを行い、事業所が出来る事、出来ない事を明確にし、十分な説明を行う事で理解・納得して頂けるよう努めている。契約内容を改定する際は、文書にて報告し、不安や疑問点等がある場合は、口頭で説明し理解、納得して頂ける様努めている。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書へ苦情窓口を明記すると共に事業所内の目につきやすい玄関にも意見箱を設置している。そこで出た苦情に関しては運営推進会議やフロアのミーティング、申し送りノートなどで取り上げ、話し合い運営に反映させ、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>意見箱を玄関に設置している。電話連絡や家族面会時等に職員に直接意見や要望などを聴取する機会となっている。家族面会時には職員側より挨拶をするようにしており、お茶などを出して話かけを行い家族から職員へ意見や要望を出し易い雰囲気作りに努めている。毎月「よもぎ便り」を発行し、事業所での利用者の生活の様子を伝えるように取り組んでいる。</p>	<p>グループホームの全体の様子だけでなく、利用者個々の生活の様子も家族に把握してもらい、家族からより多くの意見や要望を出してもらいサービスの質の向上に役立つ取り組みが望まれる。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>運営に関する事についてフロア会議やミーティング等で話し合い、その中で出た現場の意見や提案を出来る限り反映させている。</p>	<p>法人の全サービス事業所が集まる全体会議やグループホームだけで開催されるフロア会議を毎月実施し、職員からの意見や要望・提案を聴取する機会となっている。会議開催前には、会議までの把握や申し出のあった課題や意見を全職員へアンケートや意見聴取を行っている。フロア会議では、利用者の近況についても情報共有する時間を持ち、職員からの意見や気づきを出してもらいサービスや運営に速やかに反映させるように努めている。職員や管理者・経営者共にコミュニケーションを十分に持ち意見や提案が出しやすいように雰囲気作りに配慮している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員一人一人と話し合う場を設け、職員の能力や実績等に応じて、給与の設定を行っている。また賞与や処遇改善給付金などで個々に差をつけ、向上心を高めている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取組み                  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に施設内研修を開催し、スタッフの能力や経験、立場に応じた施設外の研修へも参加してもらい職員の知識・技術、仕事への意欲の向上に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上                  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>2か月に1度、池田市内で運営しているグループホームのスタッフが集まり会合を開催している。その中で、各事業所での問題を取り上げ、意見交換を行ったり、講師を招いて研修等を行う事でサービスの質の向上に努めている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係                  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>契約前の面談を行う段階で、本人の悩み不安を傾聴、受容し、場合によっては、一日施設体験を行ってもらい、少しでも安心して利用して頂ける様務めている。またサービス利用開始時は、本人との関わりを十分にとり少しでも早く関係性を築ける様努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係                  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人、ご家族のご意向をケアプランに盛り込み、その後も担当者会議などにおいて要望を聞き出し、信頼関係の構築に努めている。</p>		

17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人やご家族の意向を伺い、医療、市町村、介護関係などの他の関係機関と連携を取りながら対応している。また現状、施設で出来る事、出来ない事、またご家族の協力が必要であるか等を話し合い、また今後どのような支援が必要となるかを話し合っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒に買い物に行ったり、掃除をしたり、笑ったり、泣いたり第二の家族と思っただけの様な関係性を築ける様努めている。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族にも介護や支援を行う上で、出来る限り協力して頂き、職員と一緒に本人を支える関係づくりに努めている。ご家族のご事情で定期的な面会が困難な方でも電話連絡にて支援方法について一緒に考え共に本人を支えて行ける様な関係性を築ける様努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人の馴染みの病院やスーパー、配偶者のお見舞い等、本人が望む事は可能な限り実現出来る様努めている。</p>	<p>利用者の馴染みの場所への外出の希望があれば出来る限り支援するようにしている。馴染みの人の来訪があれば気持ち良く面会ができるように支援するようにもしている。</p>	<p>ボランティアの来訪などで利用開始後にできた馴染みの関係も継続できるように支援することが望まれる。</p>

21	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同士の関係性や性格を把握し、スタッフが媒介となり出来る限り相性の良い方同士で過ごしていただける様努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後、いつでも気軽に相談や支援が出来る様、ご家族や本人に声を掛けています。また事業所のお祭り時には連絡を取り、参加してもらう等、関係性を保つ事が出来る様努めています。</p>		
<p>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
23	<p>9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「認知症の人」ではなく一人の人と捉え、担当スタッフが中心になって聞き取りをしたり日常会話の中で意向をくみ取るようにしている。また意向をくみ取る事が困難な方の場合は、家族などの関係者から今までの生活歴や性格、思考等を情報収集し、本人を知る事から始め、本人の視点にたつて支援方法を検討している。</p>	<p>利用者との日々の関わりの中で何気ない話から思いや意向を把握・聞き取るようにしている。昔遊んだ品物や遊んだ場所等が話しの中から聞きとられる。利用者のペースに合わせた寄り添う介護に努めております。</p>	
24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>ご本人やご家族等の関係者から生活歴、なじみの暮らし方を情報収集し、本人にとって「快」と感じられる生活を過ごせる様努めている。</p>		



25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>出来る事、出来ない事を明確にし残存機能を活かした生活支援を行っている。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスやミーティング、日々の業務の中で意見交換し、情報を共有している。それをもとにアセスメント、モニタリングを繰り返し行い介護計画を立案している。</p>	<p>一人ひとりが役割を持ってゆったりと日常生活が送れるような計画となるように作成している。計画作成担当者が「施設サービス計画書」を作成し、施設サービス計画書を基に利用者一人ひとりに合わせた細やかな支援ができるように、利用者・家族の希望を踏まえ各利用者担当の職員が個別援助計画を作成している。個別援助計画の作成を始めたところで今後は、3～6カ月の定期的な評価を実施していく予定にしている。利用者の日々の生活の様子や支援の結果は経過記録に明記されている。経過記録は時系列で記載されており、リーダーが全利用者の経過記録を日々確認している。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子や気付き等は、個別で記録し、アセスメントシートと個別援助計画書を利用者毎に作成し、情報を共有し、実践につなげている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>利用者様やご家族様の状況に応じて、緊急の宿泊や通い、訪問サービスを柔軟に利用してもらっている。</p>		

29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>市役所、医療機関、民生委員、自治会、地域包括支援センター等の地域資源を活用し、連携を図る事で本人が心身共に豊かな生活を遅れる様努めている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>御家族様とご本人様と話し合いのもと、往診医、かかりつけ医を決定し、適切な医療を提供できるよう努めている。</p>	<p>利用者・家族の希望に応じて受診ができるように支援している。内科の往診医の来訪を2週間に1回受け、疾患・健康管理を行っている。眼科や皮膚科は、利用者・家族の希望や意向に応じて家族の協力を得て受診ができるように支援している。身体状況に変化が生じた場合には、内科の往診医の臨時的往診を受けることもできている。内科の往診医が認知症の専門医でもある。身体状況の変化が見られて場合は看護師に相談し適切な対応が出来ている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>常勤の看護職員を配置し、些細な事でも、報告・連絡・相談を行い、密に連携を図っている。また、看護職員が不在の時も24時間のオンコール体制を取り、いつでも適切な指示が受けられるよう整備している。</p>		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働                  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した際は、定期的に病院へ訪問し、様子を確認する共に、病院関係者と情報交換相談に努めている。</p>		
33	<p>12                  ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援                  重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>「看取り・重度化した場合における対応に係る指針」を整備し、ご本人様又はご家族様に指針の内容を説明し、同意を得ている。また、ご本人様、ご家族様、主治医、事業所職員の四者間で話し合いの場を設定し、本人様とご家族様の意向を確認しながら対応方法の共有を図っている。</p>	<p>利用者・家族の希望に応じて重度化・終末期の支援を行き、契約時より説明し理解と納得を得ている。現在まで看取りを行ったことはなく、今後看取りを行っていくために詳細な内容を話し合い・検討を重ね利用者・家族の希望や要望をくみ取りながら支援、体制を整えていくように取り組み始めている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え                  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は、池田消防署主催の救命救急講習を受講している。また緊急時のマニュアルを作成し、職員に周知徹底を図っている。緊急時の対応方法については、実際に起こった際、スムーズに落ち着いて行える様、シュミレーションを不定期で行っている。</p>		
35	<p>13                  ○災害対策                  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時のマニュアルを作成を行い、職員に周知徹底を図っている。また年2回防災訓練を行っている。（自主訓練と消防署立会いの訓練）</p>	<p>非常災害時の避難訓練を併設の小規模多機能事業所と共に定期的に行っている。運営推進会議を利用して、地域住民の方とも協力体制を依頼し支援体制の整備に努めている。</p>	<p>定期的な訓練だけでなく、年間を通じて利用者の身体状況等を踏まえて避難誘導方法を検討し、非常災害時に速やかに避難ができるように職員間で周知する取り組みが望まれる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシーの確保に関する研修の実施とマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。</p>	<p>排泄・入浴支援時には特に声かけや誘導・介助方法に羞恥心や尊厳を大切にした援助ができるように努めている。利用者の個別やプライバシーに触れる話しをする時には、それぞれの個室で話するように注意している。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の生活歴やなじみの生活等を情報収集し、まず本人を知る事を前提としている。それを知った上で日常生活の中で自己決定、自己選択が出来る様、その都度、本人に働きかけ、出来る限り本人の思いや希望に添える様努めている。</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に利用者本位を心掛け、一人一人の利用者様の状態やペースに合わせて、その時々に応じた支援を行っている。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>一緒に衣類の買い物へ出かけ、本人が自己決定・自己選択できる様働きかけている。また、2か月に一度、理容店が訪問し、本人が好きな髪型に切ってもらっている。</p>	

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や片付け等、出来る方には極力手伝って頂いている。また、気の合う利用者様と食事が摂れる様、食席の配慮も行っている。好き嫌いのある方には、他の方とは違うメニューを提供したり、朝食はパン食かご飯食か選んでもらう等、自己決定、自己選択して頂ける様配慮している</p>	<p>排泄・入浴支援時には特に声かけや誘導・介助方法に羞恥心や尊厳を大切にされた援助ができるように努めている。利用者の個別やプライバシーに触れる話しをする時には、それぞれの個室で話するように注意している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事水分摂取量が少ない方については、ご家族との相談の上、本人嗜好の飲み物や食べ物、栄養補助食品等を購入してもらい栄養バランスや十分な水分摂取が図れる様努めている。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に口腔ケアの声掛け、一部介助もしくは全介助を行っている。義歯を使用している方については夜間の間に薬品につけ消毒を行っている。</p>	/	/
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>本人の状態に応じて、排泄形態・トイレ誘導の時間の見直しを行い、自立に向けた介助を行っている。</p>	<p>排泄チェックを行い排泄のパターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた排泄誘導・支援を行い排泄の自立を図っている。おむつを可能な限り使用せず自然な排泄ができるように支援しており、日中は布パンツで過ごすことができるようになってきている方もある。</p>	<p>今後も利用者一人ひとりに合わせた排泄の支援を全職員で統一して行き、羞恥心や不安への配慮を行った排泄支援を継続していくことが望まれる。</p>

44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日常の体操の中で便秘改善運動を行ったり、散歩、十分な水分摂取の確保できる様努めている。必要に応じて主治医との相談の上、下剤の調節を行っている。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日は週2回から3回設定しているが、必要に応じて曜日・時間を変更したり回数を増やしたりしている。</p>	<p>曜日や時間を決めずに利用者の状態や希望に合わせて入浴してもらえるように支援している。基本的には同性介助を行っている。入浴は本人の希望に合わせて行うが、入浴を嫌がる方には気持ち良く入浴してもらえるように声かけや誘導を工夫している。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日々の生活習慣を把握し、その人のリズムに応じた睡眠がとれる様配慮している。十分な睡眠がとれていない場合は、その方の現在の生活状況やストレスの有無等をアセスメントし、その原因を探究する様努めている。昼夜逆転傾向にある方や睡眠が浅い方については主治医との相談の上、眠剤が処方される事もあり、生活リズムを整える事が出来る様務めている。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人一人の内服薬一覧表をファイルに閉じ、スタッフが把握できる様努めている。</p>		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>その方の生活歴を把握した上で状態に応じて役割を作り張りのある生活を送って頂ける様努めている。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>地域で開催している盆踊り、夏祭りなどのイベントに地域の方々の協力のもと、参加している。また、近くの公園に散歩したり、商店街めぐり、スーパー等の馴染みの場所にも行き気分転換を図り、地域社会との交流を図れる様努めている。</p>	<p>曜日や時間を決めずに利用者の状態や希望に合わせて入浴してもらえよう支援している。基本的には同性介助を行っている。入浴は本人の希望に合わせて行うが、入浴を嫌がる方には気持ち良く入浴してもらえよう声かけや誘導を工夫している。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の所持、使う事については、ご本人や家族との相談の上、その方の能力に応じて対応している。お金の管理方法については、基本は施設預かりとしているが、場合によってはご自身で所持してもらい、預かり金額をスタッフが把握する様努めている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人より訴えがあった際は、ご家族の同意の上、いつでも電話をして頂いている。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングにはソファやテーブルを配置し、くつろげる空間を作っている。自室については、馴染みの家具や写真等を持参してもらい、本人にとって居心地の良い空間で生活できる様働きかけている。</p>	<p>ゆったりとして清潔感がある、落ち着いた色調のリビングのテーブルを囲んで利用者は寛がれている。リビングにあるアイランドキッチンから食事支度の様子や料理の匂いがただよい家庭的で、五感刺激となっている。フロアの一角にあるスペースにソファを置き思い思いに過ごせる配慮が見られる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアにテーブル、ソファを設置し、自分の好きな所で自由に過ごしていただいている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みのある家具や私物を持って来てもらい、居心地のよい空間で過ごせる様働きかけている。</p>	<p>人のぬくもりが感じられる居室は、備え付けのベッドやタンスはあるが、利用者、家族の希望をで使い慣れたタンスやADLや希望に応じたベッドの持ち込みが行えるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>出来る限り残存能力を生かすことが出来る様配慮している。本人が現在、どういう状態にあるか把握し、他機関との連携のもと安全、安心で本人にあった福祉用具、住宅改修を行っている。</p>		



V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない